ニューギニア産全蠍目*

高島春雄

財團法人山階鳥類研究所

I 緒言

本稿は東京科學博物館2603年西ニューギニア學術調査報告、第1報として内田一氏の同報告、第2報「ニューギニア產無翅亜綱昆蟲」と共に東京科學博物館研究報告第18號として昭和19年10月の發行日附を以て上梓されることになり、既に校了になつて最後の本刷にかゝるところで印刷所の罹災により燒失した。誠に殘念であるが仕方がない。終戰後の國內事情は舊の形の儘での出版を困難ならしめてゐる。予の「東亜地域に於ける全蝎目」はそれが印刷される前に當然本稿が上梓されるものと假定の下にニューギニア産全蝎目關係補遺事項を記したりしたのであるが、肝腎の本文は陽の目を拜めさうにもない。仍つて予の手許に殘つた初校校正刷並に原圖を賴りに、補遺事項をも加筆して本誌に掲出することになつた。ニューギニアの動物は再び吾々には緣の遠いものとなつたが(想へば槿花一朝の夢であつた)現在同島に關係する外國の動物學者、醫學者方に多少はお役に立つべきを信じ印刷に附するのである。

大平洋戰爭が始まつてから何れはニューギニア產のサソリを調べる機會があらうと期待してゐたが其の機會は先づ新村氏により與へられた。東京科學博物館動物學部新村太朗氏は昭和18年1月より6月まで西部ニューギニアに資源調査をなされた折苦心採集して來た動物標品の中にサソリが幾頭かあつて昭和18年9月に一寸拜見した。手許の諸文獻に徵するに、ニューギニア產のサソリとして

---

*東亜産全蠍類脚鬚類の調査(其の十一)

Acta Arachnol Vol. X, Nos 3/4 (1948)

確實なものは汎世界的の分布を持つ Isometrus europaeus, 同じく分布の汎い Liocheles australasiae, それに濠洲系の Liocheles caudicula, Lychas marmoreus の4種に止まるやうである。昭和19年になつて其等の標品を受領調査するを得たがニューギニア動物相闡明の一助に資したい考へから本稿を草する。貴重標品を齎し予に調査の好機を與へられた新村氏に敬意を表し、その採集に係る Liocheles caudicula は未だ和名の無い種類であるから、日本人で此の種類の標品を最初に齎した人になるのであらう同氏に因み「ニヒムラサソリ」と呼ぶことに定め同氏への謝意の一端にしたい。

本稿は新村氏採集西部ニューギニア產サソリの記載を主眼とし、他に岡田豐日氏採集東部ニューギニア產のもの、某軍醫採集のニューブリテン島ラバウルのものゝ記事をも添へ、尙標品は一つも入手せぬが諸文獻により窺ひ得たるニューギニア產脚鬚目(サソリモドキ及びカニムシモドキの類)のことを附記して自他の便に供したいと思ふ。

II ニューギニア產サソリの概觀

昭和19年2月新村氏より受領した標品は總べて12罎で內容は次の如くである(何れも同氏採集)。

No. 1　ヤヘヤマサソリ　♀　17. III. 1943　Waoboe
No. 2　ニヒムラサソリ　♀　10. V. 1943　Waoboe
No. 3　ヤヘヤマサソリ　♀　10. II. 1943　Manokwari
No. 4　ヤヘヤマサソリ♀及び幼體2　8. IV. 1943　Waoboe
No. 5　ヤヘヤマサソリ　♀　18. III. 1943　Waoboe
No. 6　ヤヘヤマサソリ　♀　10. III. 1943　Manokwari
No. 7　ニヒムラサソリ　2♀♀　8. IV. 1943　Waoboe (此の內の1頭は既に折損し後腹部も櫛狀器も亡失してゐるが本種であらうと考へる)
No. 8　ニヒムラサソリ　2♂♂　8. V. 1943　Waoboe

No. 9　ニヒムラサソリ　♀　26. Ⅲ. 1943　Waoboe 石下
No. 10　ヒメマダラサソリ　♂　3. Ⅲ. 1943　Manokwari
No. 11　マダラサソリ　♀　10. Ⅲ. 1943　Manokwari
No. 12　ヤヘヤマサソリ　♀　10. Ⅱ. 1943　Manokwari

計4種16個體（ヤヘヤマ8頭、ニヒムラ6頭、マダラ1頭、ヒメマダラ1頭）である。

之等4種のサソリを原住民は格別區別することなく同じ名で呼んでゐることゝ想ふ。新村氏の「ニューギニアに於ける動物土名」(南洋資料No.288 1943) には氏が現地で採集された土名としてはハブラグレ Heboeragoere (Kwatisore村) ピリマアティア Pirimaätia (Jaoer 村) カビアタム Kabiatam (Makimi 村、Nappan 村) アリアヌ Arianse (Moor 村) 等を擧げてある。馬來名はカロジェンケン Kalojinking であるといふ。4種は次の檢索表により比較的容易に識別することが出來る。

A　胸板は前方は3角形を成して狹まる
　B　櫛狀器齒數は10～13枚 (多くは11枚)……………………ヒメマダラサソリ
　BB　櫛狀器齒數は17～19枚 (多くは18枚)……………………マダラサソリ
AA　胸板は顯著な5角形
　B　後腹部第3、第4節の背面は端部に棘がある。櫛狀器齒數は4～8枚 (多くは6枚)……………………ヤヘヤマサソリ
　BB　後腹部第3、第4節の背面は端部に棘を具へない。櫛狀器齒數は6～12枚 (多くは8～9枚)……………………ニヒムラサソリ

以上の内ヒメマダラサソリは恐らくニューギニアより未記錄であらう。尚ニューギニア產と稱する他のサソリに Isometrus variatus var. papuanus Thorell, 1888 (今日の Lychas marmoreus papuanus (Thorell)], Isometrus papuensis Werner, 1916 があり Kraepelin (1916) は Lychas marmoreus marmoreus (C. L. Koch, 1845) もニューギニアに產するとした。Werner の Isometrus papue-

nsis は原記載を覽ることが出來なくて其の眞相を知り得ずどうも殘念であるが、マダラサソリの1型に過ぎぬのではないかといふ氣がする。Thorell が上記の如くしたサソリはD' Albertis が濠洲領ニューギニアの Roro で採集した標品に基き設定されたので、此の地はポートモレスビーより稍々北西に當る1小嶼 Yule島に在る。Kraepelin (1916) は Thorell の var. papuanus を Lychas papuanus として活を入れ新產地として Cape York 半島の Sommerset, クイーンスランド州の Brisbane を算へた。更に Meise (1932) は papuanus をも marmoreus の範疇に屬するものと考へ Lychas marmoreus papuanus なる新組合の名稱を用ひてゐる。而して氏は基亞種 (marmoreus marmoreus) がニューギニアに棲息することに半信半疑の態度をとつてゐるやうである。仍つて予はニューギニアには檢索表に揭げた4種の他に今1種のサソリがをり、其のものの學名は Lychas marmoreus papuanus (Thorell) である〔L. marmoreus (C. L.Koch) の儘でも宜い〕といふことにしたい。だからニューギニア產のサソリは少くも5種ある。但し予自身は marmoreus 又は marmoreus papuanus に該當する標品を檢したことがない。比島南部や大スンダ列島に見る如き10糎もある大形種 (Heterometrus屬) はニューギニアにをらず、前記5種は何れも中形又は小形で毒性も著しくない。此の點は幸である。マダラサソリとヒメマダラサソリはキョクトウサソリ科のキョクトウサソリ亞科に屬し、ヤヘヤマサソリとニヒムラサソリはコガネサソリ科のヤヘヤマサソリ亞科に隸する。

Ⅲ 新村氏採集4種の記載

キョクトウサソリ (極東全蝎) 科 Buthidae E. Simon (1879)

標徵 胸板は殆ど三角形を成し兩側緣は並行せず前方に於て相寄る。例外として Butheolus, Charmus 屬では前稜が屋根形で五角形を成す。觸鬚の掌は圓くなり畝を具へ或は具へない。指は細長である。側眼は各側3～5個。屢々毒針の下方に1棘がある。跗節末節基部に內方、外方共に基棘を裝ふ。其のものは外

側に屢々1箇の側副棘を持つ。第3、第4兩步脚には屢々跗距を具へる。跗節端葉を見ない。此の科は Buthinae, Ananterinae, Centrurinae, Tityinae の4亞科に分れ約330種を含むがニューギニア産は Buthinae のみである。

分布　舊大陸では歐洲よりアジアにかけての舊北區、東洋區、濠洲區、エチオピア區に夫々多數の代表者があり、新大陸では北米南部から中米、南米に及ぶ。種類が多いだけに分布も廣汎である。

キョクトウサソリ亞科　Buthinae Kraepelin (1899)

標徵　櫛狀器には常に紡錘狀小片があり、觸鬚の動鋏枝の刄にみる顆粒性斜行は廣く重疊することなく副斜行を作ふこともない。第4步脚或は第3、第4兩步脚に跗距を具へる。大腮不動鋏枝の下緣には2齒或は1齒を具へ又は全く齒を見ない。

此の亞科には27屬200種以上あるがニューギニア産は Isometrus のみである。

マダラサソリ（斑全蝎）屬　Isometrus Hemprich et Ehrenberg (1828)

標徵　前腹部背板は最後のものを除き1條の中畝あるのみ。毒嚢では毒針の下方に一つの棘又は胞を具へる。大腮の不動鋏枝は下方に1齒を裝ふ。觸鬚は指の內方正中に沿ひ數條の顆粒の列に裝はれる。其等の列は互に端部がずれて重疊せず、夫々の端部には小齒狀突起が見られる。步脚の前跗節は圓筒狀で疎に且つ不規則に毛を生じてゐる。

分布　9種程あり南アジア、濠洲の產であるがマダラサソリの如く分布廣汎になつたのもある。

模式種　Isometrus europaeus (Linnaeus, 1758)

1　マ　ダ　ラ　サ　ソ　リ

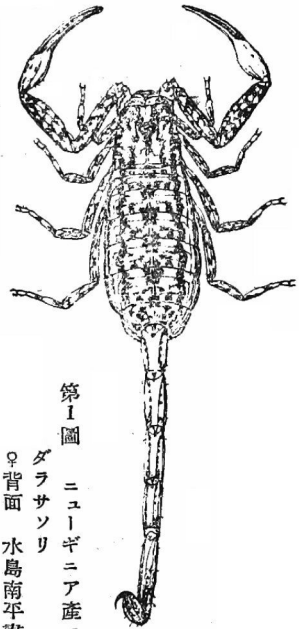
Isometrus europaeus (Linnaeus)

Scorpio europaeus Linnaeus, Syst. Nat. ed. 10, p. 625 (1758)

Isometrus europaeus Lönnberg, Ann. Nat. Hist., ser. 7, vol. i, p. 86 (1897)

標徴　以下はニューブリテン島ラバウル産♂に就いての記載である。色彩はアルコール液浸標品に基くが、比較的よく原色を保つてゐると想はれる。永く液浸狀態にあると次第に黃色から汚褐色に變るものである。色彩　背面は黃色の地に黑褐色の斑紋多く前腹部では規則的に、觸鬚及び步脚では不規則的に並ぶ。腹面は觸鬚、步脚共淡黃色、後腹部のみ背面と同色で、黑褐色不規則の斑紋が多い。毒嚢も他の體部と同色で目立たない。大腮　黃色。第1節は背甲下に隱れる。第2節は上下より扁壓され圓筒狀、黑褐色の網狀斑紋があり、其の內緣は延びて鉤狀となり、同じく鉤狀で可動の第3節に對向し小鋏を形成する。不動鋏枝は下方に1齒を裝ふ。觸鬚　基節はなかば大腮に隱される。轉節は黑褐色の大斑を有し腿節に近く一大陷凹が見られる。腿節はほゞ圓柱狀で稜は何れも顆粒の畝である。黃色の地に黑褐色の斑點が多い。脛節は前節とほゞ等長ながら中央部一層膨大し過半は黑褐色斑紋で占められる。掌は基部黃色で小黑褐紋散在し端部は黑褐色で先端に至るに從ひ淡色に變る長鉤（不動鋏枝）となる。第6節動鋏枝は不動鋏枝に對向し變方で鋏狀を呈する。兩鋏枝は下掌よりも明かに長く對向面には6乃至7列に分岐する顆粒條がある。內外兩面に細毛を列生。背甲　汚黃色で黑褐色斑が多い。底邊と高さと略々等長な梯形で顆粒夥多、中央を劃する縱溝がある。前緣は內方に刳られる。側眼丘に3箇の小なる側眼が見られ、中眼丘には左右1對の中眼が位置する。各小眼は黑褐色で光輝がある。前腹　背面にはよく發達した7背板が見られる。黑褐色斑は中畝に沿ふものほゞ1縱線を成し、其の側方に曲折ある稍々太い黑條が各1本ある。中央の1條と左右の兩條との中間、背板後緣上に各1箇の黑褐斑があり、第7背板に至り亂れて不規則斑紋となる。背板は第1のもの最も短く、爾後次第に長さを增し第7背板は梯形を成して尻つぼみとなる。何れの背板も顆粒に富み、第7背板を除けば1條の中畝あるのみ。下面では觸鬚基部の下方に半月狀の1雙の腮葉、其の內方に1雙のバナナ狀の第1步脚腮葉が見られ、其の下方第3、第

4歩脚の基節に挾まれて、やゝ五角形に近き三角形の胸板が存す。其の下方1雙のほゞ半圓形の性扉は左右相接し何れも中央窪む。之に接し横に狹い甲板卽ち第2腹板が見られ中線に沿つた上半は深い溝で第3乃至第6腹板は總べて幅廣い矩形で淺い2縱溝で3分せられる觀がある。第7背板のみやゝ圓い梯形で幅廣く下方は狹まり光澤に乏しく顆粒に富む。

櫛狀器　外緣部は縱の1溝により2區域に仕切られ、多數の毛を主に上方に列生せしめる。中間部は大小9部分程に仕切られる。內緣部は紡錘狀の小片を經て牙狀突起下方に向ひ櫛齒狀に並列する。其の齒數は各側17～19本である。後腹　背甲及び前腹の合長（卽ち胴長）

第1圖　ニューギニア產マダラサソリ♀背面　水島南平畫伯描く〔新村氏原圖〕

第2圖　岡田豊日氏採集東部ニューギニア產マダラサソリ♂背面〔原圖〕

よりも著しく長い。各節は後方のもの程細長い。毒嚢は上面より觀れば心臓形で鋭い1鉤即ち毒針を出す。生ずる刺毛は少い。毒針は内下方に彎曲し長さは嚢部に及ばない。毒嚢下面末端に1鉤（袋刺）を出し毒針に對してゐる。歩脚上面は黄色で黒褐色の斑紋不規則に生じ、下面は汚黄色で殆ど斑紋を缺く。何れも同形で後方のもの程長大、生ずる刺毛は先方のもの程數多く跗節内面の毛は刷毛狀、跗節先端には2上爪と微小な1下爪を附隨させる。第3、第4兩歩脚の脛節と跗節の先端に2棘を具へる。

測定　次表中初出のものが記載に用ひた個體である。

性	體長	背甲長	前腹長	後腹長	觸鬚腿節長	同脛節長	同掌長	産地
♂	44.5	4	11	29.5	6	6.5	9	ラバウル
♂	——	5	11	——	9	8.5	12	〃
♀	——	5	19	——	6	6.0	9	〃

二次性徴　♂は1）胴長に於て稍々劣るも2）尾狀の後腹は狹長で軀幹を遥かに凌駕し♀で尾長の1.4倍位なのに胴長の2.3倍位にもなる（老熟したものは體長70粍になると云ふ）。右はサソリの諸種中二次性徴の顯著な1例として學者の屢々示す所である3）觸鬚は纖細※4）掌は殆ど滑かである（♀は多少明瞭な隆起線を有する）。

分布　本種は船舶により東洋區方面からアジア・アフリカ・アメリカの熱帶・亞熱帶地方に浸潤したもので、恐らく現在は熱帶・亞熱帶地方に殆ど汎世界的に分布してゐるものと考へられる。歐洲ではスペインの一部に見られる。臺灣・琉球・内南洋に産し、近年小笠原諸島で蕃殖するやうになつた。南方諸地域では印度・セイロン・ビルマ・アンダマン諸島・馬來半島・華南（福建省・海南島其の他）、比島・スマトラ・ジャワ・ボルネオ・モルッカ諸島・ニューギニア・ニューブリテン・濠洲（稀）其の他に弘布する。

※性	胴長	尾長	觸鬚腿節長	同脛節長	同掌長
♂	15.5	36	8	8.5	11
♀	18.5	26.5	5.5	7	9

2 ヒメマダラサソリ（姫斑全蝎）（新稱）

Isometrus formosus Pocock

Isometrus formosus Pocock, Reise Niederl. O.-Ind. Bd. ii, p. 88, Pl. VI, figs. 3-3c (1893); Kraepelin, Mitt. Mus. Hamburg Bd. xiii, p. 126 (1896); Kraepelin, Scorp. u. Pedip., Das Tierreich Lief. 8, p. 67 (1899)

始め罎の外から窺ひみた時はマダラサソリの未成熟のものであらうと考へたが、取り出して調べるに及び本種であることが判つた。從來本邦の學者に記載されなかつたもので、和名も無いから種名 formosus の意を酌み上記の如く定める。標品は未成熟の♂1頭きりで科學博物館に返却する必要上、分解して精査することは許されない。以下の程度の記載で我慢せねばならぬ。本種の全形圖はPocock の原記に附隨する原色背面圖のみであらうと思ふ。

標徵　色彩　液浸の標品に於て觸鬚は黄色の地に黑褐色の斑紋があり、第4節目に於て著しい。背甲と前腹は黄褐色で同様黑褐色斑紋を具へ、背甲の中眼丘より前方は概して褐色。歩脚は觸鬚と同調ながら斑紋は後者程目立たない。尾部は始めの3節は黄色で端部に2黑斑明瞭。他の3節は濃褐色。大腮　第2節は背腹に稍々扁き圓筒狀で上面は黄色の地に黑褐色の網目模樣があり、端部は鋸齒を具へる鉤となり略々同形の第3節と小鉗を成す。鋸齒狀の部分は赤色。觸鬚　構造はマダラサソリに似てゐる。各節細毛を粗生、黄色の地に黑褐色の斑紋を有するが腿節と脛節殊に後者に於て顯著である。掌及び指部にも小黑褐斑を散布。脛節は幅最も廣く内縁は鋸齒狀。背甲　幅は僅かに長さに優る前狹後廣の梯形狀。前緣は稍々への字形に刳られる。中眼丘は顯著で黑色、其の前方中央は廣く褐色、又下方も黑褐斑顯著である。正中の陷凹は明瞭。粗顆粒を可成り多數認める。中眼及び側眼はマダラサソリと同様。前腹　各背板の後緣（最後のものを除く）は廣く黄色、それより前方は灰褐色。中畝を圍み一圍の褐色斑があり其の側方外緣に近く黑色斑が目を惹く。何れも顆粒多く中畝を具へ、最後のもの丶み中畝は目立たず代りに2雙の側畝が發達。胸板は稍々三角形。

腹板は平滑で黄色に縁取られ後縁にのみ黒褐色小斑列在。尙背面のに似て一層簡素な黒褐色斑を見る。始めの3板は殆ど平滑、次の1板は小顆粒を生じ、最後のものは更に平滑感乏しく顆粒の3縦溝がある。櫛狀器の齒は太く長いものを左右共11本具へる。齒數は10～13本を彷徨し普通は11本であるといふ。後腹背面では始めの3節は同色。黄色の地に正中並びに縦畝に沿ひ黒褐色斑があり、後縁近く1對の黒斑が著しい。殘りの3節は大いに黯色を增し、第5節は寧ろ赤黒色。畝はマダラサソリに類するが其の後端部では小さいながら端棘となり、第3、第4節にて著しい。毒嚢は略々圓筒に近い。殆ど平滑。毛は主として下方に生ずるが、中に3雙の長毛が目立つ。側面觀は大體卵形、3條程の顆粒の畝がある。端部は鋭い毒針となるが之に對向して1袋刺を起生せしめる。毒針はかなり長く、其の先端は毒嚢の下方の中畝の切線（假に引いたとすれば）の延長を凌駕する。袋刺は扁壓されて幅廣く先端2岐してゐると看做してよい。袋刺と毒針との間隙は袋刺の基方の幅よりも狹い。歩脚　上面は黄色で黒褐斑があり、前跗節の基部2/5程は黒色に染められる。下面は殆ど斑紋を缺く。何れも同形で後方のもの程長大、刺毛と細毛とを混へ生じ先方のもの程數多く、蹠節内面の毛は刷毛狀。前蹠節の先端に蹠距がある。

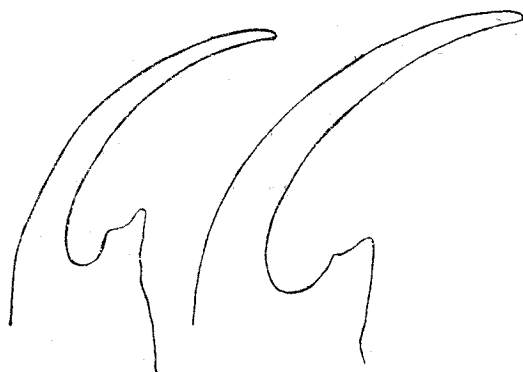
測定

背甲長	背甲幅	前腹長	前腹幅	後腹長	觸鬚長
2	3	7	3	14	12

二次性徵　予は未だ♀を檢し得ないが Kraepelin は二次性徵として1）尾部は♀では軀幹より僅かに長く、♂では2倍長にまでなる2）毒嚢は♀では卵形に膨れ側方に强い縱畝樣顆粒を具へ♂では殆ど圓筒狀、殆ど畝無く平滑である3）體長♀で30粍以内、♂で40粍 等の諸形質を指摘してゐる。本個體では尾長の1.5倍になつてをり、性屏は左右兩半が完全に癒合してゐない點からも未だ成長の餘地ある♂と斷じて誤無きを信ずる。

分布　本種は古くジャワの Buitenzorg 產15頭の標品に基き設定されたもの

で、其の後スマトラ西海岸地方やシンガポールにも産することが知られた。ニューギニアに分布することを考へるとジャワからニューギニアに至る大小島嶼にも産するものであらうと推測される。

備考　マダラサソリとは1）色彩を異にする。背甲から前腹にかけては灰褐色味強く煤けて見える。後腹部後半は赤黒くなつて斑紋はぼやけてゐる。背甲に

第3圖　マダラサソリとヒメマダラサソリの毒針及び袋刺を示す。左はヒメマダラサソリ、右はマダラサソリ、共に左側面を示し毛を略す。カメラルシダ使用〔原圖〕

於ても中眼丘より前方は廣く褐色に塗り潰される。前腹の各背板の斑紋は中央に五角形を置いて平假名の「く」の字様の斑紋が兩方からそれを挾んでゐる感がある。叉鋏の指部にも小斑紋があつて、褐一色に塗り潰されてゐない2）櫛狀器齒數は10～13本（多くは11本）でマダラサソリより少い3）毒嚢に見る毒針と袋刺との間隙は廣からず、袋刺は先が二叉してゐる等により識別困難でない。2）の形質は最も便利な手懸りになると想ふ。

從來予はサソリの外部寄生蟲を見出し得なかつたが本個體で甫めてそれに遭遇した。右第4步脚の脛節に橙色のダニが1頭着生してゐた。體長4.8粍、體幅2.55粍位で步脚は4對ある。何れ專門家に調べて貰ひ其の天籍を明かにしたい。

コガネサソリ（黄金全蝎）科　Scorpionidae　Pocock（1893）

標徵　胸板は兩側縁並行か或は殆ど並行してをり、前方で寄つてをらず五角

形を成す。側眼は各側3箇。掌は屢々扁壓され圓味あるは稀である。蹠節末節は基部に於て外側にのみ關節膜の中に棘がある。第3、第4兩歩脚には蹠距は無い。毒針下方には袋刺を見ない。

此の科は Lispsominae, Urodacinae, Hemiscorpioninae, Scorpioninae, Ischnurinae の6亞科に分れ約150種を見るが ニューギニア産は Ischnurinae だけである。

分布　アフリカ、マダガスカル、アラビア、メソポタミア、イラン地方に優勢で、更に印度から馬來諸島にも多いが濠洲本土に到れば劣勢となる。中米にも產する。

ヤヘヤマサソリ（八重山全蝎）亞科 Ischnurinae Kraepelin (1899)

標徴　背甲は前方に向つて分岐する縱溝を有する。第1、第2尾節は下方に2第の中畝を持つ。掌は扁く壓定される。常に明瞭な指畝がある。跗節末節に圓い側葉が無いので、側緣端は爪葉と共に一つの直角稜を作る。毒囊は♂も♀も同樣である。

此の亞科には7屬約50種あるがニューギニア産は Liocheles のみである。

ヤヘヤマサソリ屬 Liocheles Sundevall (1833)

標徴　側眼は3箇で背甲緣邊に位置する。觸鬚の脛節には大なる三角狀の基結節がある。指の內外面は殆ど直角に互に傾き內面は平滑、動鉗枝は双に於て顆粒の2並行列を具へる。雌の性扉は癒合してゐるが縫合の溝がある。歩脚の跗節末節は下方各側に若干の纖細な刺毛（棘ではない）があり、短い棘狀小齒の正中列を缺く。

分布　印度、印度支那半島、比律賓、ミクロネシア、馬來諸島、ニューギニア、ソロモン群島、濠洲等に產する。東洋區及び濠洲區以外には見ない。

模式種　Liocheles australasiae (Fabricius, 1775)

此の屬には幾つも種類が設けられたが何れも影の薄いもので、明かに別種たるは次出のヤヘヤマサソリとニヒムラサソリ位である。

3 ヤヘヤマサソリ

Liocheles australasiae (Fàbricius)

Scorpio australasiae Fabricius, Syst. Ent., p. 399 (1775)

Liocheles australasiae, Simon, J. Asiat. Soc. Bengal vol. lvi, p. 113 (1887)

標徴　以下はニューブリテン島ラバウル産の雌(未だ老熟に至らぬ個體)に就いての記載で、色彩はアルコホル漬標品に基いてある。色彩　背面は概して暗褐色、觸鬚のみ褐色。背甲並びに前腹部は灰褐色で灰白色の關節膜が發達してゐる。後腹は暗褐色、毒嚢のみ黄色で目立つ。腹面は概して汚黄色、歩脚は淡褐色、觸鬚は褐色、前腹は灰褐色、後腹部は背面と同色(毒嚢も然り)。大腮　褐色。第1節は隱れて見えず、第2節は上下に扁き圓筒狀黑褐色の不規則線條劃れ滑かで光澤があり、内緣は延びて鉤狀で可動の第3節と共に小鉗を形成する。鉗を成す兩鉤は鋭い齒を列生、下面は刷毛狀に黄白色の毛を密生する。

觸鬚　背面より觀れば基節に續く轉節は凹凸著しく顆粒多く光澤がある。上方に數本の長刺毛を生ずる。腿節は圓柱に近く、内緣の鋸齒狀を成す顆粒條は黑色に染められ、外緣も顆粒の稜となる。表面には小顆粒を密布する。脛節は更に幅廣く基部は强く内方に抉られ、其の部の稜はへの字形となる。掌は最も著しく手袋をはめたる如く、後掌の長さは背甲長を凌駕し、基部より急に膨れて幅廣く外緣の顆粒條は黑色、端部は黑色の鉤となり尖端のみ淡色、略々同形の上鉗枝と共に鉗を成す。鉗は後掌よりも明かに短く、對向面は2條の並行せる顆粒條を成す。各節何れも頗る顆粒に富み光澤あり、刺毛を粗生する。後掌には個體により略々正中を黑褐色の縱條が走る(本個體では不分明)。各節何れも頗る小顆粒に富むも水平に扁壓せられて光澤があり、脛節下面は扁平で點刻を密布し顆粒は見られない。背甲　褐色で不分明な網狀斑があり、顆粒を密布し光澤に富む。前狹後廣の四邊形で中央を劃する縱溝があり、後緣に近く斜上に走る1雙の皺襞がある。前葉は黑く緣取られ弧狀に内方に刳られる。前外隅に側眼丘存し各3箇の小側眼がある。又縱溝の中央より稍々上に中眼丘があり左右

1對の中眼が位置する。各小眼は夫々黑色。前腹　肥えて長大である。背面には7背板が見られる。第1、第2のものは幅狹く灰褐色（個體により爾餘のものより稍々濃く褐色を呈するのがある）、爾餘のものは幅廣く灰褐色或は汚褐色、皺襞多く光澤に富む。最後のものは略々半圓形につぼまる。何れも中畝も側畝も餘り著しくない。關節膜良く發達し灰白色を成して各甲板の間に認められる。下面では第2步脚の下方第3、第4兩步脚の基節に狹まれて五角形の胸板が見える。個體によりY字狀の窪みが中央より稍々下方に認められる。其の下方の性扉は兩半は縱溝を隔てゝ左右癒合し、全體は長楕圓形となる。第3乃至第6腹枚は總べて幅廣い短形で灰褐色或ひは淡汚褐色、淺い2縱溝で3分せられる觀がある。第7腹板のみ外緣圓く半圓形を成して終る。各腹板は點刻を密布し光澤がある。櫛狀器　外緣部は1枚の甲片で少數の刺毛を生じてゐる。中間部は3部に分れる。內緣部より生ずる牙狀突起は短く太圓筒狀で數も少い（本個體では左右各6本である。4〜8齒の範疇を出でぬものと信ずる）。後腹　長さは軀幹（胴部）に遙かに及ばぬ。急に細まつて前腹と對照著しく尾といふ感が深い。各節顆粒多く長刺毛を列生する。第3、第4兩背板には微小な端棘が認められ、第3のものは一層明瞭である。下面は第1、第2節では正中に沿ひ、短棘の2並行列があり第2節に於て著しく各棘は前方に眞直に向ふ。第5節にも小棘の列があつて各棘は後方に眞直に向ふ。毒嚢は上面は扁平で刺毛を生ぜず、下方は20本程の刺毛を具へ內下方に鉤曲する銳い毒針のみ赤褐色。毒針は長さ遙かに毒嚢に及ばず、且つ對向する袋刺を生じない。步脚　上面は黃褐色で肉眼では認められぬ程度の不規則な褐色斑紋を生ずる。何れも同形で後方のもの程大。膝節は長さ腿節に及ばぬが幅は廣い。第3、第4步脚の脛節先端に棘無く、前蹠節の先端內方に1棘を具へる。蹠節末端には大形な2上爪と小さい1下爪とを附隨させる。

測定

性	體長	背甲長	背甲幅	前腹長	後腹長	大腮長	觸鬚腿節長	同脛節長	同掌長
♀	30	5	5	14	11	—	4	5	9

♀※	35	5	5.5	(腹部長 30)	2	(觸鬚長 17)

第 1 歩脚長	第 2 歩脚長	第 3 歩脚長	第 4 歩脚長
8	9.5	10.5	11

二次性徴　♂では1）前腹短小で肥大せず　2）觸鬚の指に陷凹と膨出が見られ 3）性扉は左右兩半明瞭に區劃され、癒合して長楕圓形にならない。♂は♀に比して少い。

分布　臺灣（紅頭嶼にも）、琉球、内南洋其の他 Indo-Malaya 及び Austro-Malaya 地方に汎布する（華中、華南、ビルマ、テナセリム、馬來半島、比律賓、馬來諸島、ニューギニア、ニューブリテン、ソロモン群島、北オーストラリア、タヒチ）。

4 ニ ヒ ム ラ サ ソ リ（新稱）

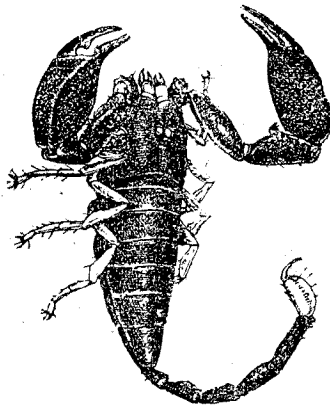
Liocheles caudicula (L. Koch)

Ischnurus caudicula L. Koch, Verh. Ges. Wien, vol. xvii, p. 237 (1877)

Hormurus caudicula, Thorell, Atti Soc. Ital., vol. xix, p. 249 (1879)

以下はニューギニア產成雄に就き記載する。色彩は液浸標品に基く。色彩 背面は前種よりも著しく黑味が強い（特に觸鬚）。稍々赤味ある黑色。Kraepelin (1899) は「大抵暗褐乃至黑色。稀に明色」と記した。歩脚及び毒囊は褐色で暗く煤けてゐる（他の1成雄では明色で他の體部との對照が可成り目覺ましい）。腹部では頭胸部、前腹部、歩脚は淡色で黄褐乃至褐色。大腮　第1節は灰褐色なるも背甲下に隱れ、第2節は上下に長く稍〻扁き圓筒狀で光澤があり、褐色の地に黑褐色の網目を有する。上緣赤褐色となり内緣は一旦二叉し、各々は更に二叉する鉤となつて上方に挺出、第3節は同じく齒狀突起ある鉤となり、第2節鉤狀部に對向して小鉗を形成する。鉤狀部は共に赤褐色で裏面には黄白色

※ 產地を異にする他の♀につき測る。

の毛を刷毛狀に密生する。觸鬚　殆ど黑色。基節は背甲下に隱されるも內方に三角形を成して起出し、長刺毛を少數生じてゐる。轉節は顆粒に富み、端部寄りの所は廣く刳られて上下２段に岐れた感がある。10本以內の刺毛を生ずる。腿節は角柱に近く顆粒頗る多く、內外兩緣は顆粒の列に裝はれる。刺毛を粗生すること前節に同じ。脛節は略々同大で內方に向ひ、1棘狀瘤起を生ずる。掌は著しく大きく上下に扁壓される。顆粒を密布し不分明なる２縱畝がある。刺毛と細毛とを粗生せしめる。上面は靑黑色で光輝ある鉤狀突出卽ち指部となる。第６節は同じく鉤狀で前者に對向して鋏となる。双に當る部分は２條の顆粒列を裝ふ。♂では指部に顯著な二次性徵が示され、不動鋏枝では基部に近く深い１缺刻を有し、動鋏枝では同じく著しい缺刻を經て瘤狀の膨出があり、之が兩指を合せた時不動鋏枝の缺刻部に略々收まるやうになつてゐる。それから先は尋常。背甲　全面顆粒に富み或る部分は針でつゝいたやう。光澤を缺く。前緣は下方に刳られる。正中に縱溝がある。眼丘其の他は前種同樣。

第４圖　ニューギニア產ニヒムラサソリ　♂背面　鋏に注意　水島南平氏描く〔新村氏原圖〕

前腹　各節何れも光澤無く中畝は著しくない。腹面では胸板は五角形で殆んど全面針でつゝいたやう。光澤があり後方正中は溝となる。其の下方性扉は各半圓形で、癒合せず別々に動く（♂のみ）。櫛狀器外緣部は眞珠樣小體を隔てゝ太く短い齒を列生させる。其の數は６～11枚で、多くは８枚あるといふ。本個體は左右共９枚である。腹部は最後のものを除けば全面針でつゝいた如くであるが平滑で光澤がある。最後の１枚のみ正中に沿ひ２縱畝があり、それより下方は光澤を失ふ。後腹　主に下方に少數の刺毛を生ずる。下方は不分明な縱畝を見るのみ。第1、第２節では畝上に、第５節では畝と關係無く若干の鈍い結節が

あるが概して平滑と云へる。上面は前方の缺刻と正中の溝著しく、小顆粒が多い。背畝は不分明で端棘は全く見られない。毒嚢は上面觀は舌狀、側面は上の平坦な卵形、毒針は赤褐色で短く袋部の幅に及ばない。下方殊に前方に少數の刺毛を見る。歩脚　何れも同形で後方のもの程大。各節に刺毛を僅數生ずるが、先方程其の數を增す。前跗節の端部に近く關節膜上に1跗距を生ずる。跗節末端の2上爪及び1下爪はヤヘヤマサソリに同じ。

測定

性	體長	背甲長	背甲幅	前腹長	後腹長	觸鬚長	大腮長	第1步脚長	第2步脚長	第3步脚長	第4步脚長
♂※	43	7	7.5	16	20	31	—	14	15	17	19
♂※※	43	7.5	8	16.5	19	32.5	5	—	—	—	—
♀	—	6.5	7	18	—	27.5	—	—	—	—	—
♀	35.5	6	6	14.5	15	23	4	—	—	—	—
♀	46	7.5	8	20.5	18	27	—	—	—	—	—
♀	33	5	5.5	15	13	20	—	—	—	—	—

二次性徵　♀は1) 觸鬚の指部は平凡で陷凹も膨出も無い2) 性扉は兩半は正中の溝を以て隔てられるも癒合し別々に動かない3) 前腹長は後腹長を凌ぎ♂よりも長く、隨つて體長稍々大である等により識別せられる。

分布　旣知產地は比律賓、セレベス、モルッカ諸島、ニューギニア、Waigeu島(ニューギニアの屬島)、ソロモン群島、濠洲等で濠洲系サソリの1例である。ニューギニアには稀ならざる種類と考へられる。ボルネオにも產するといふ。

※ 記載に用ひた個體　※※ 圖示せる個體

備考　本種はヤヘヤマサソリによく似たものであるが次の諸點で識別される。

1) 後腹部第3、第4節の背板上の畝は端部に棘を具へない
2) 後腹部第1、第2節は下方は平滑、あつても少數對の結節位のもの
3) 後腹部第5節は殆ど平滑で小齒を生じない
4) 觸鬚脛節下方は平滑でない
5) 背甲や腹部も平滑でなく少くも一部には顆粒がある
6) 櫛狀器齒數は6～12枚で8～9枚のものが多い
7) 體は90粍以內、掌は15粍以內

6は便利な手懸りになる。體もヤヘヤマサソリより大きいし、全體黑味の强いこと、其の他背面の色彩も差異にならう。Hormurus insculptus Thorell, Ischnurus Karschii Keyserling, Hormurus weberi Pocock, Hormurus sarasini Kraepelin, Hormurus papuanus Kraepelin, Hormurus boholiensis Kraepelin 等は何れも本種と同種で强ひて分けるなら亞種として生きる程度のものであると考へる。

IV 東部ニューギニアのサソリ

臺北帝國大學醫學部の畏友岡田豊日氏はマラリア調査の爲、ニューギニアの瘴癘の地に半歲を過し、時々空爆の危險に曝されつゝ昭和18年初冬元氣で內地に戻られた。其の間各種の動物の採集にも力め、特に予の爲にサソリを採集、12月20日寄贈せられたのは感謝に堪へない。其等は何れもマダラサソリで、採集月日など次の通りである。4は8粍程の幼體7頭を擔つてゐた由で、其等も一諸に保存してあつた。

1	♂	15. V. 1943	ウェワク(東部ニューギニア)	植木鉢下	岡田豊日採
2	♂	19. II. 1943	ウェワク	外人家屋內	〃
3	♂	28. VII. 1943	カイリル島(ウェワク西北の小嶼)		〃
4	♀	5. VI. 1943	ウェワク	室內机の中	木南司政官採

何れも未だ老熟に至らぬ個體である。測定を次に揭げる。

	性	背甲長	腹部長	腹部幅	觸鬚腿節長	同脛節長	同掌長	櫛狀器齒數
1	♂	4.5	10+28	5	6	7.5	10	左18 右18
2	♂	4	11.5+26	5	5.5	6	9	左18 右折損
3	♂	5.5	11+26	5.5	5	6.5	9	折 損
4	♀	5	11.5+23	6	4	6	9	左18 右17

V ラバウルのサソリ

昭和19年2月14日加藤光次郎博士の御好意により、某軍醫がニューブリテン島の首都ラバウルで採集したサソリ標品1罎を拜借調査するを得た。同博士に深く御禮申し上げる。其等は4個體で調査の結果は次の如くである。

	性	背甲長	背甲幅	前腹長	後腹長	觸鬚腿節長	同脛節長	同掌長	櫛狀器齒數
1 ヤヘヤマサソリ	♀	5	6	14	11	4	5	9	左6 右6
2 マダラサソリ	♂	4	—	11	29.5	6	6.5	9	左18 右18
3 〃	♂	5	—	11	—	9	8.5	12	——
4 〃	♀	5	—	19	—	6	6	9	——

2は佳良な標品で頭胸部、前腹部、觸鬚、步脚などの腹面は何れも鮮黃色なのが目を惹く。3は後腹部が失はれてゐた。一度乾燥してしまつたらしく櫛狀器は干からびてはつきり數へられぬがどちらも18枚位はある。4も良くない標品、乾品だつたかと想はれる。櫛狀器齒數は左右共17枚らしい。

VI ニューギニア產脚鬚目

脚鬚目（サソリモドキ類）は新村氏も岡田氏も1頭も採集して來られなかつたが、所產種が無いわけでなく確實なものは6種ある。サソリモドキ科 Thelyphonidae では Abaliella rohdei (Kraepelin, 1897) を產し Abaliella（モンナシサソリモドキ屬）はニューギニア、ビスマルク群島、ソロモン群島、サモア群島などの地域からのみ知られるサソリモドキである。他地から移入されてゐつ

きになつたのに Thelyphonus manilanus C. L. Koch, 1843がある。此の種は學名の示す如く比島原産である。Thelyphonus leucurus Pocock, 1898 はニューギニア及びソロモン群島に産する。ヤイトムシ科 Schizomidae では Trithyreus modestus Hansen, 1905 が見つかつてゐるだけであるが（此の種はニューギニアとニューブリテンの産）將來綿密な採集が行はれゝばもつと他種が記錄されるに違ひない。ウデムシ科 Tarantulidae では南方諸地域に分布の汎いカニムシモドキ Charon grayi (Gervais, 1844)〔Thorell が 1888年命名の Charon papuanus といふのは本種の異名〕の他に Sarax saravakensis (Thorell, 1888) が知られる。種名はボルネオのサラワクに因んでゐて、ニューギニアのみならずビスマルク群島、ボルネオに産する。

Ⅶ 結　　語

全蝎目も脚鬚目も所産種類が少いので（將來もつと發見されるであらうが）、特に分布論をものする程のこともない。たゞニューギニアの從來の動物地理學上の位置が、サソリやサソリモドキを對象としても、些かもぐらつかないことだけは事實である。本稿はニューギニア及びニューブリテンのサソリを取扱つた本邦最初の文獻たることに多少の意義を認められるであらう。南方諸地域に於けるサソリの害に關しては既に別稿※に說いたし、今回それに格別の附言を要せぬのである。本稿中の諸種の記載は單に標徵の指示に止まらず、サソリ類の外形觀察の際の手引として役立つかも知れぬ。

高島春雄による東亞產全蝎類脚鬚類の調査成績一覽

其の一　琉球列島產全蠍目 Biogeographica vol. iii, no. 3, pp. 273-285, 4 figs. (1941)

※ 非常に遲れて次のやうな形式で出版された。
南方諸地域の蠍概說　科學技術論文集 6　生物學・醫學 pp. 3-15, 1 fig. (1947)
尙本稿よりずつと後に纏めたものながら本稿に魁けて印刷された次の1篇も併せ參照せられるやう希望する。
東亞地域に於ける全蠍目　Acta Arachnol. Vol. X, Nos. 3/4 (1948)

其の二　日本産全蠍目及脚鬚目　Acta Arachnologica vol. viii, nos. 1/2, pp. 5-30, 6 figs. (1943)

其の三　日本の蠍　寶塚昆蟲館報　no. 10, pp. 1-7, 6 figs. (1941)

其の四　日本産全蠍目及脚鬚目知見補遺　Acta Arachnologica vol. vi, no. 3, pp. 87-98, 7 figs. (1941)

其の五　東亞産全蠍類脚鬚類の調査（其の五）　Acta Arachnologica vol. vii, no. 1, pp. 24-30, 2 figs. (1942)

其の六　チャグロサソリとカネグロサソリ　Acta Arachnologica vol. vii, nos. 3/4, pp. 124-128, 2 figs. (1942)

其の七　山西省産全蝎目　Acta Arachnologica vol. x, nos. 3/4, pp. 112-116 (1948)

其の八　蝎漫記　Acta Arachnologica vol. viii, no. 3, pp. 58-65. 7 figs. (1943)

其の九　ジャワのサソリモドキ　植物及動物　vol. xi, no. 12, pp. 957-958 (1943)

其の十　南方諸地域の蠍概説　科學技術論文集 6 生物學・醫學 pp. 3-15, 1 fig. (1947)

其の十一　ニューギニア産全蝎目　Acta Arachnologica vol. x, nos. 3/4, pp. 72-92, 4 figs. (1948)

其の十二　ブーゲンビル島産脚鬚目　動物學雜誌　vol. lvi, nos. 9/10, pp. 10-13 (1945)

其の十三　日本及び其の近傍産脚鬚目　Acta Arachnologica vol. x, nos. 3/4, pp. 93-108, 6 figs. (1948)

其の十四　ニューギニア及びシャム産の蝎　採集と飼育　vol. viii, no. 2, pp. 48 & 43, 1 fig. (1946)

其の十五　極東蝎　Acta Arachnologica vol. ix, nos. 1/2, pp. 51-53 (1944)

其の十六　東亞地域に於ける全蝎目　Acta Arachnologica vol. ix, nos. 3/4, pp. 68-106 (1945)

其の十七　南方諸地域に於ける脚鬚目概説　Acta Arachnologica vol. x, nos. 1/2, pp. 32-50 (1947)

其の十八　舊日本産蝎目目錄　本誌次號に掲出豫定